

優しい昌ちゃん

嬉しい事や、楽しく愉快な事があった時、心から一緒になって喜んで呉れる人は少ない。昌ちゃんは、心から何事も此方の身になって、喜び、祝福してくれる、数少ない人の一人だった。

過去形を使ったのは、若くして逝ってしまったからだ。

昌ちゃんとは、村上昌久(まさひさ)、叔父敏一郎の長男で、私の従弟(いとこ)で、当時は県立宮城工業高等学校の教師だった。石巻に自宅があるが、遠刈田温泉街近くに別荘がある。自宅から県立高まで通っていたが、土曜日には学校から直接別荘に行く。自然の中で二晩過ごし、月曜日に学校に戻り、以後金曜日まで自宅から通勤する。それを繰り返していた。

叔父は職業軍人で、終戦時は少佐だった。一般に徴兵で入隊して、階級が上つても、最高でも伍長か軍曹止まりで、大抵は上等兵で除隊してくる。伍長、軍曹になる人はごく少ない

軍人の階級は初めて入隊した時が二等兵で、それから一等兵、上等兵、兵長、その上が、下士官、伍長、軍曹、曹長、その上が職業軍人で将校で、尉官は准尉、少尉、中尉、大尉、佐官は少佐、中佐、大佐、将官は少将、中将、大将、その上は日本で二、三人しか居ない雲の上の軍人、元帥だ。

天皇陛下は生まれながらに大元帥である。今の自衛隊の階級も似たような名称だ、大、中、小、を、一、二、三、に置き換えただけだ。元帥はな

いよつだ。

二等兵から上り詰め、少佐になった軍人は、宮城県に二人しか居ないと聞いたことがある。叔父は立志伝中の人物で、小学校時代八年間を通し、首席だったそつだ。

主題をはずれたが、昌ちゃんはその家庭に育った。県工でも優しく生徒にも人気があり、慕われていたよつだ。

私は電気工事も手がけて居たので、中学校出の子を雇った。時々昌ちゃんが来ていたので、世話になり県工の夜間部に入学させた。

夜間部は四年間通つ。午後三時に仕事をやめ学校に行く。四年間で自動車の免許、電気工事の免許などは、店の経費で取得させた。

あの当時給料を手取り十万円呉れていた。昌ちゃんが、生徒で一番給料が多いと言っていた。

二郎が大学に入学願書を出してからは、心から応援してくれ、親身になって心配してくれる。昌ちゃんの心根が痛いほどわかった。

二郎が無事合格したとき、真つ先に駆けつけてくれて喜んでいた姿を思い出す。別荘に私たちだけを招待してくれた時もあり、義兄夫妻も連れて行ってくれた事もある。温泉に入りご馳走になり、楽しく昌ちゃんと過ごしたあの時を偲び。昌ちゃんの冥福を祈ろつ。